

まちに、夢を描こう。



# 安全報告書 2026



笑顔あふれる「明日」を創る



筑豊電気鉄道株式会社  
Chikuho Electric Railroad Co., Ltd.

## 目次

1	ごあいさつ	2
2	安全に関する方針	2
2-1	西鉄グループ 安全に関する基本方針	2
2-2	安全に関する行動方針	2
3	安全マネジメント体制	3
3-1	西鉄グループ安全マネジメント体制	3
3-2	筑豊電気鉄道における安全マネジメント体制	4
4	安全管理	5
4-1	PDCA サイクルによる安全管理	5
4-2	社長（安全統括管理者）による周知徹底・確認	6
4-3	安全に関する会議	6
4-4	内部監査の実施	6
4-5	運輸安全マネジメント評価	6
5	2025 年度（前年度） 安全目標・安全重点施策	7
5-1	安全目標と達成状況	7
5-2	安全重点施策	7
6	2025 年度（前年度） 安全重点施策の取り組み	8
6-1	安全意識の浸透	8
6-2	ヒューマンエラーと事故・故障の防止	8
6-3	ヒヤリハット情報等の収集・活用	9
6-4	安全を支えるための人材の育成	10
6-5	災害、テロ等への備えと発生時の対応	10
6-6	施設、設備による安全対策強化	10
7	安全確保の取り組み	11
7-1	駅構内通路の廃止	11
7-2	踏切ゲートの設置	11
7-3	乗務員の労働環境改善に関する取り組み	12
8	お声掛けの実施	13
8-1	障害者団体との情報交換会	13
8-2	「声掛け・サポート」運動へのお願い	13
9	事故等の発生状況（過去 3 年間）	14
9-1	鉄道運転事故・輸送障害・インシデントの発生件数	14
10	アルコールに関する取り組み	15
10-1	飲酒運転撲滅に関する社員教育等	15
10-2	厳正なアルコールチェック	15
10-3	自主検知の徹底	15
11	お客さまへのお願い	16
11-1	「鉄道輸送の安全確保のために」	16
11-2	「沿線にお住まいの皆さまへ」	16
12	鉄道近接工事について	17
13	2026 年度（本年度） 安全目標・安全重点施策	18

# 1 ごあいさつ

いつも筑豊電気鉄道をご利用いただき、誠にありがとうございます。また、弊社事業にご理解とご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

弊社は、西鉄グループの一員として、「安全の確保」が企業存立の根幹であり、お客さまからの信頼の源泉であると強く認識し、社長以下役員・全従業員一丸となって事業に取り組んでいます。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全性向上に向けた取り組みや安全の実態について、とりまとめ公表するものです。皆さまのご理解を賜りますとともに、ご意見などお寄せいただければ幸いに存じます。

代表取締役社長 青木 忠司

## 2 安全に関する方針

### 2-1 西鉄グループ 安全に関する基本方針

私たちは、西鉄グループ企業理念において「安全の確保」を第一の使命としています。私たち一人ひとりが、自らの責任と役割を自覚し、お客さまからの信頼に応え、社会的責務を果たしてまいります。

1. 安全を何より最優先する組織・風土の構築
2. 安全マネジメント体制の確立と継続的改善
3. 安全を支える従業員の能力向上と健康の確保
4. お客様の安全を第一に考えた商品・サービスの提供
5. お客様との安全に関するコミュニケーションの推進
6. 基本方針に基づく施策の確実な実施と法令の遵守

以上の方針に基づき、「安全の確保」に向けた不断の努力を重ねてまいります。

### 2-2 安全に関する行動方針

安全に関する行動方針を次のとおり定めています。

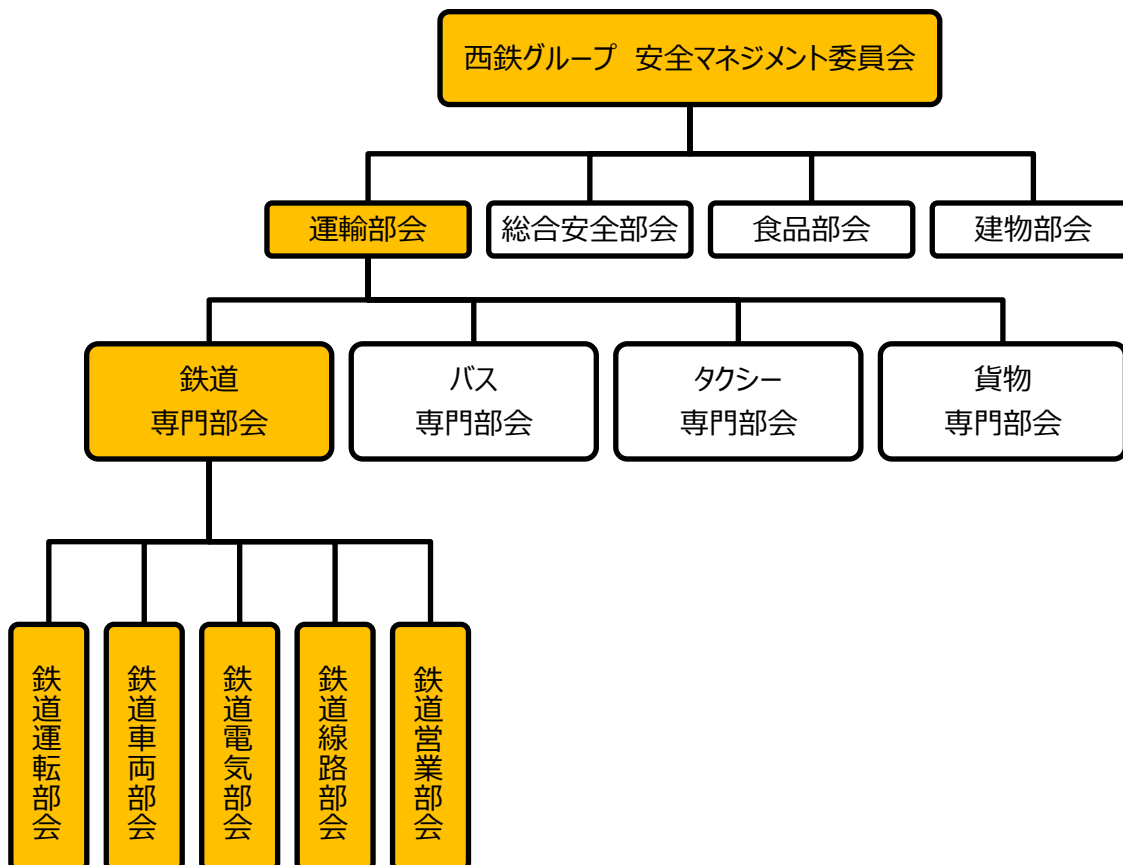
1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める。
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程（本規程を含む。以下、「法令等」という。）をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努める。
4. 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをする。
5. 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとる。
6. 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
7. 知識技能の維持向上に努めるとともに、常に安全に関する問題意識を持ち、積極的に課題に取り組む。

### 3 安全マネジメント体制

#### 3-1 西鉄グループ安全マネジメント体制

西鉄グループでは、グループ事業全般にわたる安全性の向上を図るために、グループの横断的な安全マネジメント体制を構築しています。

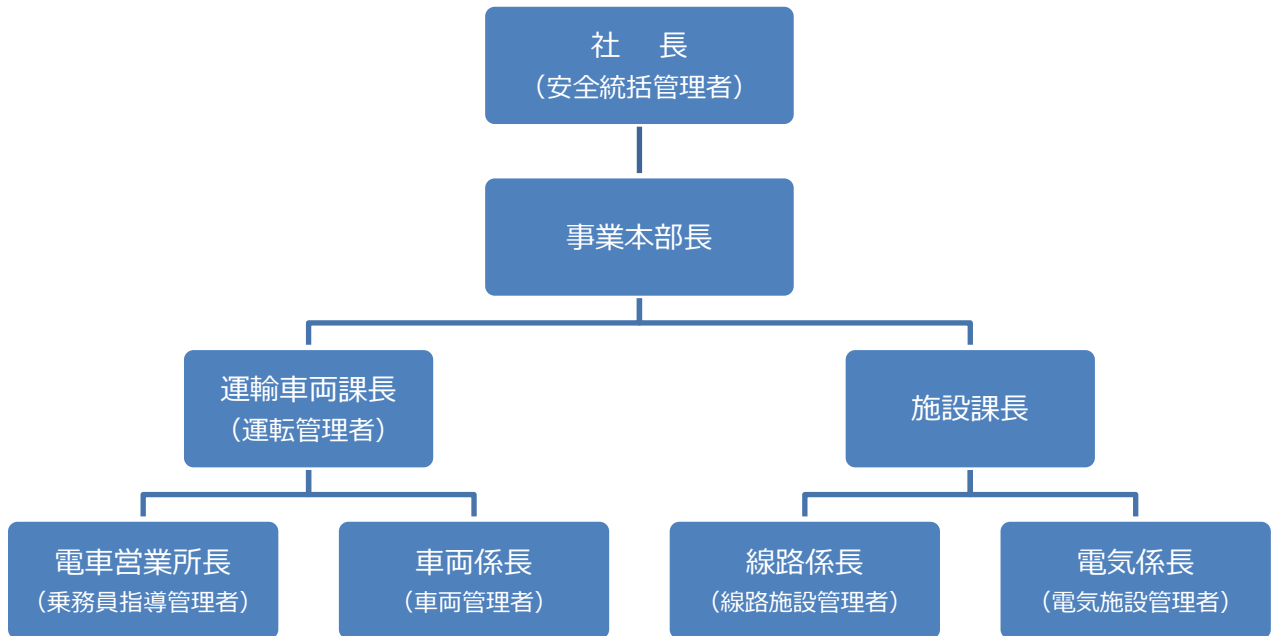
当社は、鉄道専門部会に所属し、年間の安全目標や安全重点施策（安全目標を達成するための具体的な取り組み）を策定し、下部組織である「鉄道運転部会」「鉄道車両部会」「鉄道電気部会」「鉄道線路部会」「鉄道営業部会」の5つの部会がそれぞれ具体的な取り組みを行っています。各部会には、西鉄や当社だけでなく、車両・施設の検査等管理業務を担う西鉄エンジニアリング(株)、駅業務を担う(株)西鉄ステーションサービスも参加しており、西鉄の鉄道グループ一丸となって安全性の向上に努めています。「鉄道専門部会」では、半期ごとに目標の達成状況や具体的な取り組み状況の確認を行っており、この会議には多角的な視点で議論を行うことができるように安全・危機管理対応推進部や監査部など、一般管理部門も参加しています。



### 3-2 筑豊電気鉄道における安全マネジメント体制

2006年10月に安全管理規程を制定し、社長をトップとして、輸送の安全確保に関する業務を統括する安全統括管理者および各責任者の役割を明確にし、安全マネジメント体制を構築・運用しています。

#### (1) 安全管理体制図



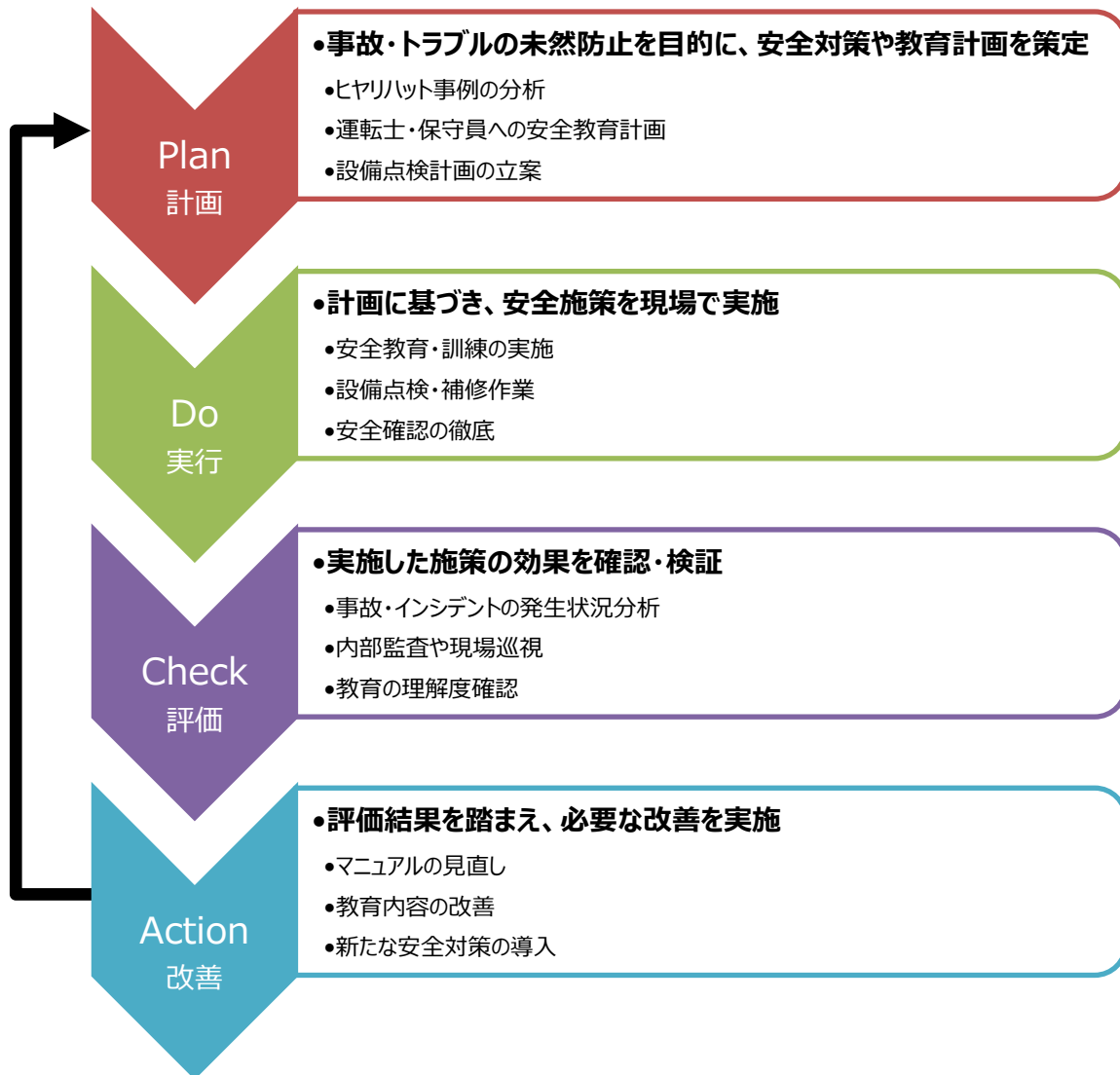
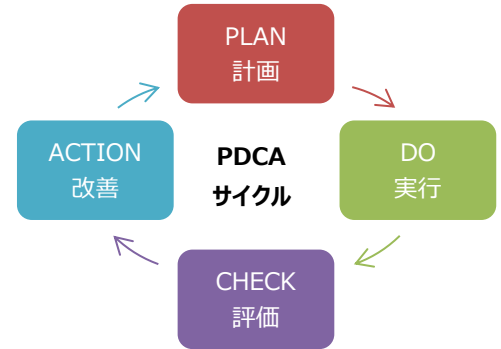
#### (2) 責任者の役割

役職	役割
社長 (安全統括管理者)	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負うとともに、輸送の安全の確保に関する業務を統括する
事業本部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資並びに人事、財務に関する事項を統括する
運輸車両課長 (運転管理者)	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する
施設課長	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する
電車営業所長 (乗務員指導管理者)	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質の維持に関する事項を管理する
車両係長 (車両管理者)	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する
線路係長 (線路施設管理者)	安全統括管理者の指揮の下、線路関係の施設に関する事項を統括する
電気係長 (電気施設管理者)	安全統括管理者の指揮の下、電気関係の施設に関する事項を統括する

## 4 安全管理

### 4-1 PDCA サイクルによる安全管理

安全目標および安全重点施策は、安全に関する取り組みの根幹となるものです。PDCA サイクルを継続的に回すことで、安全管理体制の強化と事故の未然防止に努めています。



## 4-2 社長（安全統括管理者）による周知徹底・確認

社長（安全統括管理者）の重要な責務のひとつが基本方針や行動方針の周知徹底です。1月に各職場の巡視を行うと共に、車両（9月）、電気・線路（3月）に鉄道施設の巡視を行い、関係法令の遵守と安全最優先の意識の徹底を図りました。



## 4-3 安全に関する会議

社長、本部長、関係課長および係長で構成する「安全推進会議」を毎月開催し、ヒューマンエラー、事故の芽、ヒヤリハット情報、お客さまから寄せられたご意見等の共有、事故・輸送障害等の再発防止策の進捗確認を行っています。また、半年おきに「安全推進委員会」を開催し、安全重点施策の取り組み状況の確認と継続的な見直しを行っています。

## 4-4 内部監査の実施

### (1) 安全監査の実施

安全管理規程に定められている輸送の安全に係るそれぞれの責任者（3頁記載）の安全監査を実施し、安全管理体制が適切に運営され、有効に機能しているかを確認しています。

### (2) 部門監査の実施

安全管理体制が適切に機能していることを確認するために鉄道部門の4係（電気係・線路係・車両係・電車営業所）でクロスチェックによる客観性の高い監査を実施しています。他部門による違った視点から監査を行うことで、潜在的なリスクや問題点を早期に発見できます。また、他部門の成功事例を参考にすることで、業務プロセスの改善が期待されます。

## 4-5 運輸安全マネジメント評価

運輸安全マネジメント評価とは、国土交通省が事業者に対して安全管理体制が適切に構築され、機能しているかを定期的に評価・アドバイスするもので、当社においても2025年2月に実施されました。経営トップ（社長・安全統括管理者）を始め、社員が一丸となって取り組んでいることを評価いただきました。また、更なるスパイラルアップのための助言もいただきましたので、参考としながら、継続して安全マネジメントの向上に努めております。

## 5 2025年度（前年度）安全目標・安全重点施策

### 5-1 安全目標と達成状況

安全目標	達成状況
① 安全を最優先に考え、行動する	全部署において、管理者による積極的な声掛けを行い、意見の出やすい雰囲気醸成に努めるとともに、安全に関する取り組み発表会等で、安全意識の高揚を図りました。
② 責任事故ゼロ※1 責任インシデントゼロ ※2	<b>達成</b> 責任事故 0件 <b>達成</b> 責任インシデント 0件
③ 鉄道係員に起因する輸送障害ゼロ ※3	<b>達成</b> 鉄道係員に起因する輸送障害 0件
④ 車両・鉄道施設に起因する輸送障害の防止・減少	<b>達成</b> 車両・鉄道施設に起因する輸送障害 0件 過去に発生した車両・鉄道施設に起因する輸送障害の再発防止に取り組みました。

※1 責任事故とは、当社鉄道係員・車両鉄道施設に起因する鉄道運転事故のことです。

鉄道運転事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故の7つをいいます。

※2 責任インシデントとは、当社鉄道係員・車両・鉄道施設に起因するインシデントのことです。

インシデントとは、鉄道運転事故が発生するおそれのある事態のことです。

※3 輸送障害とは、鉄道運転事故以外で、列車に30分以上の遅延または運休が発生した事態のことです。

### 5-2 安全重点施策

安全重点施策
① 安全意識の浸透
② ヒューマンエラーと事故・故障の防止
③ ヒヤリハット情報等の収集・活用の強化
④ 安全を支えるための人材の育成
⑤ 災害、テロ等への備えと発生時の対応
⑥ 施設、設備による安全対策強化

## 6 2025 年度（前年度） 安全重点施策の取り組み

### 6-1 安全意識の浸透

#### (1) 職場討議

西鉄の鉄道グループ会社で定めた「私たちの安全の誓い」を題材に、一人ひとりが安全最優先に考え行動できるよう、ファシリテーターが中心となってグループ討議を行い、安全意識の向上を図りました。



#### 鉄道グループ 『私たちの安全への誓い』 ～「安全」を最優先に～

- 1.活気あふれ一体感のある職場を追求していきます
  - 互いに向き合い認め合う（風土）
    - ▶ 私たちは、常に現場で何が起きているかを共有し、現場の判断を最優先に行動します。勇気を持って行った判断の結果を、決して責めることはありません。
    - ▶ 私たちは、互いを尊重し合い、考えている事や不安に思っている事を、気兼ねなく話し合える職場を目指します。
  - 対話を進めて連携と協働を促進する（コミュニケーション）
    - ▶ 私たちは、職場内での距離関係を育むため、挨拶や声かけに心掛けるとともに、対話を重ねていきます。
    - ▶ 私たちは、職種や部署に関わらず交流を深め情報を共有し、互いの顔が見える（助け合える）関係性を構築していきます。
- 2.お客さまの安全を想像する感性を磨いていきます
  - 共に学び成長を続ける（指導・教育）
    - ▶ 私たちは、様々な事故・事例から学び、気づくチカラを磨き、想像するチカラを広げていきます。
    - ▶ 私たちは、互いに学び成長し合える仲間として、共に考え、問いかけ、伝え、考えるチカラを引き出していきます。
  - 知を得る変化に対応する（知識）
    - ▶ 私たちは、知識や技術の習得に励み自己成長し続け、これからの環境変化に対応できるよう、備えを講じます。
    - ▶ 私たちは、これまで積み重ねられた技術・技能や経験を受け継ぎ、常に最新の判断が出来るよう、日々の作業を振り返り、経験を学びに繋げます。
- 3.自ら考え行動していきます
  - お客さまからの信頼（笑顔）が私たちの誇り（意識）
    - ▶ 私たちは鉄道人として、お客さまと従業員との「いのち」を意識し行動します。
    - ▶ 私たちは、お客さまからの期待と信頼に応えられるように、情熱をもって仕事に取り組みます。
  - 一人ひとりが考えることをやめない（行動）
    - ▶ 一人ひとりがルールを守り行動することを、安全の取り組みの第一歩とします。
    - ▶ 私たちは、思い込みや固定観念に捉われず、確認・判断を行います。
    - ▶ 私たちは、小さな気づきや不安に感じたこと、ためらわず連絡・報告します。

#### (2) 安全対話

安全統括管理者および事業本部長ならびに各課長は、年に1度、各職場を訪問し、全従業員（鉄道）と直接意見交換を行うことで、現場の課題把握や、安全意識の向上を図っています。



### 6-2 ヒューマンエラーと事故・故障の防止

各職場では小集団活動を実施しています。過去の事故やインシデント、ヒューマンエラーの経験を踏まえ、改善が必要なテーマを選定し、係員が知恵を絞って業務の効率化を図っています。

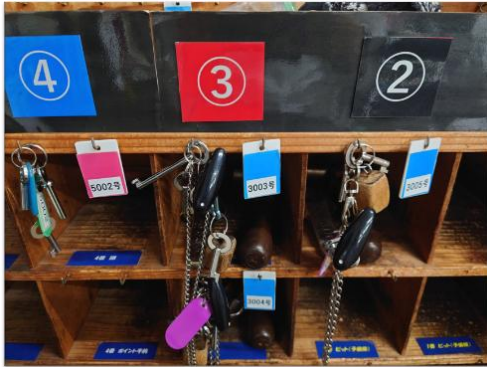
年に一度、全部署が集まり、各職場の安全に関する取り組みを発表する会を開催し、情報の共有を促進しています。



### ●小集団活動の取り組み事例

電車営業所では、電車を出庫する際の運転備品（ブレーキハンドルやレバーハンドル等）の受取について、運転士が各自、棚から受け取る形態となっていたため、担当する車両以外の受取が過去数回生じていました。

そのため、管理者から運転士へ手渡しする方法へ変更し、相互で確認するよう改善いたしました。また、バラバラ受取っていた運転備品をひとつのカバンに纏めることで、持ち運びが便利になりました。



### 6-3 ヒヤリハット情報等の収集・活用の強化

事故や障害等の未然防止のため、現場第一線の係員からのヒヤリハット情報や事故の芽情報等の安全情報の収集に取り組んでいます。主に下記の3つのルートで収集し、担当部署で分析ならびに対策を検討し、その対応策を各部門の係長以上から社長（安全統括管理者）まで参加する毎月の安全推進会議で情報展開を行っています。

- ・ 各職場に設置している「ヒヤリハット・事故の芽情報ボックス」で社長（安全統括管理者）に直接届く情報
- ・ 各職場会議等を経て報告される情報
- ・ 乗務中の乗務員や現場で作業中の係員が、列車の安全運行に支障する恐れのある事象に気付いた場合、直ちに運転指令に報告する情報

#### ●ヒヤリハット情報の事例

情報	対応・対策
<p>遠賀野駅～感田駅間を惰行中、遠賀野 2 号踏切道の遮断桿が線路内に入り込み、反対線路を支障していた為、常用ブレーキで当該踏切道手前で停止した。</p> <p>（おそらく遮断桿が降りているにも関わらず、車が進出し遮断桿が折損したと思われる）</p>	<p>担当運転士は、当該踏切道が障害の起きやすい場所であり、日頃より踏切道手前で停まれるよう意識していたため、遮断桿折損を早期に発見し踏切道手前で停止できました。</p> <p>有難うございました。</p> <p>全乗務員には、点呼指導により本事象を周知しました。</p>

このように、ヒヤリハット情報を収集し、社内で展開・共有することで事故の未然防止に努めています。

## 6-4 安全を支えるための人材の育成

年間教育訓練計画を定めて、遵守すべき規程類の徹底と、事故・故障の防止や発生した場合の迅速・確実な対応を図るため、机上教育およびOJTによる技術・技能の伝承に取り組んでいます。

なお、異常時訓練は、安全統括管理者ならびに事業本部長の立ち合いのもと実施しています。



## 6-5 災害、テロ等への備えと発生時の対応

電車営業所では、車内で傷害事件発生が発生した場合の避難誘導訓練（車イスのお客さまが乗車している想定）を実施しました。また、施設の浸水時の教育や災害発生を想定した訓練を行いました。



## 6-6 施設、設備による安全対策強化

2025年度は、主に以下の施設、設備による安全対策を行いました。

部署	内容
線路関係	PCマクラギ化、重軌条化
電気関係	インピーダンスボンドの更新、電力管理システムの更新
車両関係	ATS受信器の更新

## 7 安全確保の取り組み

### 7-1 駅構内通路の廃止

2025年10月に希望が丘高校前駅の構内通路にて、通学途中の小学生と列車が接触する鉄道人身障害事故が発生しました。接触した小学生は、幸いすり傷程度で命に別状はございませんでした。

この事象を受けて、管轄する折尾警察署と中間市と協議し、地元の同意を得て、当該通路を廃止いたしました。ご協力いただきました地元の方々につきましては、感謝申し上げます。



廃止前



廃止後

### 7-2 踏切ゲートの設置

西山駅の構内通路に踏切ゲートを設置しました。踏切ゲートは、視認性を高め、遮断桿により通行者へ危険を認識させることが出来るとともに、一旦停止や左右確認を促進することが期待できます。

ご利用のお客さまへは、ご不便お掛けしますが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。



設置前



設置後



使用方法

### 7-3 乗務員の労働環境改善に関する取り組み

安全性の向上や乗務員の労働環境改善に寄与する取り組みを推し進めてまいります。皆さまのご理解をお願いいたします。

- 運転士の保護メガネ（偏光サングラス）の着用

日差しによる眩しさを軽減するために保護メガネ着用を導入し、運転士の疲労軽減や信号・標識などの視認性向上を図ります。

- 乗務員の制帽着用任意化

近年の気候変動やクールビズの浸透など社会情勢の変化を受け、熱中症対策や働きやすさ向上を目的に乗務員の制帽着用を任意化しています。





## 9 事故等の発生状況（過去3年間）

国土交通省令の「鉄道事故等報告規則」に基づき、踏切事故や人身事故などの「鉄道運転事故」、車両鉄道施設の障害などで30分以上の遅れや運休といった「輸送障害」、事故が発生する恐れがある「インシデント」として、国土交通省九州運輸局に届けた件数です。

### 9-1 鉄道運転事故・輸送障害・インシデントの発生件数

年 度	2025 年度	2024 年度	2023 年度
鉄道運転事故	1	0	0
輸 送 障 害	4	1	3
インシデント	0	0	0

- 鉄道運転事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故の7つをいいます。
- 輸送障害とは、鉄道運転事故以外で、列車に30分以上の遅延または運休が発生した事態のことです。
- インシデントとは、鉄道運転事故が発生するおそれのある事態のことです。

#### (1) 鉄道運転事故

年 度	2025 年度	2024 年度	2023 年度
鉄道人身障害	1	0	0

#### (2) 輸送障害

年 度	2025 年度	2024 年度	2023 年度
鉄 道 係 員	0	0	0
車両鉄道施設	0	1	1
自 然 災 害	3	0	2
鉄 道 外	1	0	0

#### (3) インシデント

2025年度のインシデントは、発生していません。

#### (4) 鉄道係員に起因する輸送障害

2025年度の鉄道係員に起因する輸送障害は、発生していません。

## 10 アルコールに関する取り組み

西鉄グループでは、2006年8月21日に発生した飲酒に関する不祥事で得た教訓と反省を風化させないよう、毎月1日を「飲酒運転撲滅強調の日」と定め「絶対に飲酒運転をしない・させない・見逃さない」という「飲酒運転3ないの誓い」の唱和を行い飲酒運転の撲滅に取り組んでいます。

また、厳正なアルコールチェックと自主検知の徹底および意識の啓発を継続的に実施していくとともに、従業員の飲酒運転撲滅に関する教育にも取り組んでいます。

### 10-1 飲酒運転撲滅に関する社員教育等

- (1) 企業理念・コンプライアンス教育の徹底
- (2) 管理・監督者による従業員の個人面談
- (3) 部門長による飲酒運転撲滅に関する講話
- (4) 飲酒運転撲滅ハンドブック等による教育および意見交換の実施
- (5) 飲酒運転撲滅に関する内部監査の実施



### 10-2 厳正なアルコールチェック

全事業所にカメラ付きアルコール検知器を設置しています。始業前に管理者立会いの下アルコールチェックを行い、パソコンに記録しています。

電車営業所の検査では、アルコールチェックに加え、検温機能も備えており、体調不良の乗務員を乗務させない仕組みを取っています。

また、月初めに安全統括管理者（社長）が早朝の点呼に立ち合い、アルコールに関する訓示を行い、啓発活動に努めています。



### 10-3 自主検知の徹底

鉄道従事員（乗務員・技術員）へ携帯型のアルコール検知器を貸与し、出勤前の自宅でのアルコールチェックを促しています。



## 11 お客さまへのお願い

### 11-1 「鉄道輸送の安全確保のために」

- 踏切では必ず一旦止まって左右の安全確認をしてください。
- 警報機が鳴り出したら絶対に踏切内に入らないでください。
- 発車間際の駆け込み乗車は危険です。次の列車をお待ちください。
- 線路上に物を置いたり、列車に物を投げたり、駅や車両に落書きをするなどのいたずら行為は犯罪です。  
見かけた際は係員、電車営業所（TEL.093-619-3077）もしくは警察へご連絡ください。



### 11-2 「沿線にお住まいの皆さまへ」

安全な列車運行を行うためには、鉄道施設の工事がが必要です。

極力、ご迷惑をおかけしないよう努めておりますが、工事による騒音や振動でご不便をおかけする場合がございます。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 12 鉄道近接工事について

線路付近での工事（以下、「鉄道近接工事」）では、些細なミスで作業員の方や作業用機械が列車と接触したり、線路上空の架空電線で感電するなど、人命にかかわる重大な事故を引き起こす危険があります。また、鉄道施設を損傷させた場合、長時間列車を止め、多くのお客さまにご迷惑をおかけする事もあります。

そのため、鉄道近接工事を行う場合は、皆さまの安全と列車の安全のため、事前に工事のご連絡をいただきますようご理解とご協力をお願いいたします。

### ●主な鉄道近接工事の例

- ・建物の解体、新築、補修
- ・樹木の伐採
- ・柵および塀の撤去、新設、補修
- ・道路の舗装
- ・電柱建植、撤去
- ・地下埋設工事
- ・当社架空電線に近接して行う重機作業（クレーン、バックホウ等）

### ●鉄道近接工事の範囲について

鉄道敷地境界（フェンスや高架橋の柱）から5mの範囲（目安）までを鉄道営業線の近接範囲と定めています。ただし、この範囲内の工事だけではなく、重機や足場等設置物の転倒・倒壊範囲が鉄道営業線近接範囲に含まれる場合も鉄道近接工事として対応いたします。

なお、鉄道近接工事に該当するか否かは作業内容や周辺環境によって変わりますので、判断が難しい場合は、協議申請を行っていただきますようお願いいたします。

鉄道近接工事に関するお問い合わせ先

事業本部 施設課 線路係 TEL.093-245-0364

## 13 2026年度（本年度）安全目標・安全重点施策

2026年度は、以下の安全目標・安全重点施策を掲げ、目標達成を目指します。

### (1) 安全目標

安全目標
① 安全を最優先に考え、行動する
② 責任事故ゼロ・責任インシデントゼロ
③ 鉄道係員に起因する輸送障害ゼロ
④ 車両・鉄道施設に起因する輸送障害の防止・減少

### (2) 安全重点施策

安全重点施策
① 安全意識の浸透
② ヒューマンエラーと事故・故障の防止
③ ヒヤリハット情報等の収集・活用の強化
④ 安全を支えるための人材の育成
⑤ 災害、テロ等への備えと発生時の対応
⑥ 施設、設備による安全対策強化

### (3) 設備投資計画

2026年度は、主に以下の施設、設備による安全対策を行います。

部署	内容
線路関係	PCマクラギ化、重軌条化
電気関係	インピーダンスボンドの更新、電車線自動張力調整装置新設
車両関係	新型車両代替購入